

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4471300105
法人名	医療法人 大分厚生会
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)
訪問調査日	平成21年2月27日
評価確定日	平成21年4月9日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成21年3月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4471300105
法人名	医療法人 大分厚生会
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)
所在地	由布市挾間町古野254番地3 (電話)097-583-5355

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年4月9日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年3月28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.5 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3階建ての	1階 ~	3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500 円	その他の経費(月額)	200円/日 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		920 円	

(4)利用者の概要(平成21年 2 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	70 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川崎内科 麻生歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 居室の窓から、高崎、鶴見、由布の山々が眺められ法人の病院や道を隔てて、医大病院があり健康面で安心して生活ができています。
- 2 隣接した法人施設の行事に参加したり、定期的に外出行事を計画し居室に閉じこもらないような声かけ、外出する事が馴染んでくる支援をしている。
- 3 スタッフがさまざまなアイデアを出し利用者から昔の習慣、生活を教わり男性職員は、おにぎりの作り方、草花の名前を習ったりして家庭的で和やかな日々を過ごす取り組みをしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題である同業者との交流を通じた向上は、改善シートを作成し、全職員で話し合い取り組みはできている。また、評価の意義は管理者が説明し各職員がそれぞれ取り組み、意見を出し合い管理者が仕上げている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票は全職員が個別に取り組み事務長、管理者、ケアマネジャーがまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に関催し、地域代表、家族代表など、幅広い方の参加により、防災や不審者情報、家族代表による意見などが出されそれをもとに、防災や不審者パトロールを実施している。家族代表から出された意見は話し合い改善に向けた取り組みを行い、結果をサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に3~4回家族会を開催し、意見や思いを聞き取るようにしている。また、アンケートも実施し出された意見はすぐに話し合い、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の老人会に加入し、体調に合わせて利用者も健康講座に参加し同行した職員が健康体操の指導を行っている。また、毎月の市報も届けられ地域の情報も伝わっており、お祭りや保育園の運動会に参加している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の下で利用者が有する能力に応じ、自立した日常生活を地域に密着して行う」ことを、理念とし、サービスを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をロビーの入り口の見やすい位置に掲示し、内部研修時や職員会議の前、朝礼の際に確認し日常のケアに活かす取り組みをしている。		
2. 地域との支えあい					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会に加入し、体調に合わせて利用者も、健康講座に参加し同行した職員が健康体操の指導を行っている。また、地域のお祭りや保育園の運動会にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善項目である同業者との交流については、交流事業所を1ヶ所から4ヶ所に増やし情報交換を行っている。また、自己評価は個別に取り組み管理者が意義を説明し、まとめを行っている。		
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し地域の代表者、家族代表者が参加し防災や不審者情報、利用者家族も意見を出し、それをもとにして防災や不審者パトロールを実施している。また、家族から出された意見は、早急に話し合いをし、改善に向けた取り組みを行いサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は運営推進会議に参加している。グループホームからは事務長と管理者が市へ出かけ、申請などのアドバイスをもらい今年度中にスプリンクラーの設置ができるようになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が訪問した時、日常の暮らしぶりや、金銭管理について報告し、来訪の少ない家族には支払いを振込みにせず月に1度は来てもらうようしている。また、法人が作成する広報誌「ちゃれんじ」を毎月発行し写真や行事を見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回～4回家族会を開き、意見や思いを聞き取るようにしている。また、アンケートも実施し意見は職員ですぐに話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人異動の場合は2ヶ月前予告し、1ヶ月内に引継ぎをしている。職員は法人行事で顔見知りのためダメージはない。また、辞職の場合は事前に家族や利用者に伝えダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て段階に応じた研修参加を行っている。新規採用職員には法人内研修があり、現任職員の外部研修は文書が来た時、希望者が順番に参加し、内容は全職員に学習会で発表したり、回覧で周知している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の4事業所と相互訪問を行い、見学、資料交換、情報交換など行っている。また、広報誌も届けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前より通所リハビリをしている人がほとんどで、利用者、職員とも顔見知りであり交流はできている。利用開始前には自宅訪問も行い住み慣れた部屋に近い居室作りをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒におやつ作りをしながら、男性職員には、おにぎりの作り方を教え、職員から感謝の言葉を返している。若い職員には季節の草花の名前を教えたり、一緒に懐メロを歌って楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートに家族の思いや意見が記入しており、日常生活の中で利用者の思いを把握し、一人ひとりの思いや意向を探りだすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングシートをもとに家族の意見を聞き取り、全職員でケアプランを出し合い定期的なカンファレンスをしている。また、医師の意見も取り入れた介護計画の作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しをしているが、毎月のモニタリングで状態変化のある場合は随時見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の自宅に衣類の入れ替えに同行したり、地域の老人会行事に付き添い、家族が同行できない時の通院介助など柔軟に支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体である病院より医師が随時に訪問診療をしている。利用開始前の医療機関を利用する場合でも、家族や職員が同行しているので連携はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての終末期のあり方について、もと本方針があり、利用開始時にターミナルケアについての話し合いを行い「重度化した場合における取り扱い」についてのマニュアルを作り、利用者、職員、医師とで方針の共有はできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護、個人情報について、年に1回は研修を行い、利用者のプライドに配慮した言葉かけをしている。個人情報については、資料、メモ類は持ち出さないなど、徹底した指導を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは基本的にはあるが、利用者一人ひとりの体調、気分によって判断し、自室で過ごしたり、日向ぼっこをしたり、おやつ作りの手伝いをしたり、希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳のできる人は、職員と一緒にいき、職員も同じテーブルで季節の話題や食材について話しながら、同じものを食べている。委託業者が運んできているが業者と法人栄養士により、利用者の好みや食べたいものは献立に取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午前中の希望が多く入浴を嫌がる人はなく、体調不良の場合は清拭、足欲をして清潔保持を第一としている。また、毎日入りたい人は希望に沿っている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴をしっかりと記録し職員は得意なこと、できる事として、洗濯物をたたんでもらったり、配膳の手伝い、花の水やり、庭掃除などできる事への支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日声かけをし体調に合わせて散歩をしたり、近くにある老人保健施設で俳句や活け花、習字などを行っている。また、デイケアにも参加する事が多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室など鍵を掛けないケアに努めている。レクリエーションや散歩などで気分転換を計り見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治区との防災協定を結んでおり協力は得られるようになっている。年2回避難訓練を行い、夜間の想定も取り入れた訓練を行っている。今年度中にスプリンクラーも設置するようになっている。又備蓄についても準備はできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食後確認し記録している。献立は法人の栄養士がチェックしバランスの取れたものとなっている。また、嚥下機能に応じた刻み、おかゆなども一人ひとりの体調や状態に合わせた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域住民から頂いた季節の花を飾り、お雛様も飾っているが、利用者の話題につなげる昔懐かしい置物や飾りが少ない。不快な音や光はなく居心地よく過ごせる工夫が見える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパート形式の居室であるが利用者の希望に沿って、仏壇を置いたり、洗濯した洋服を掛けてあったり、好みの家具を持ち込んでいる利用者もあり居心地よく過ごせる工夫が見られる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県由布市
記入者名 (管理者)	平村 豊
記入日	平成21年2月2日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通じて、自治区長や民生委員に働きかけをし地域の高齢者の暮らしについて情報収集を行い、その内容を検討し、可能なものは、還元、実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回調査の結果について職員で話し合い改善に取り組んでいる。また今回の評価について管理者は職員に意義を説明して、各人において自己評価をして、朝夕の申し送り時に意見を出し合いまとめている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者と家族の代表、市担当者、地域代表者(自治会長また民生児童委員)の参加により事故防止や苦情解決について話し合っている。また、意見や質問が積極的に出されグループホームとしてもケアに活かそうとしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者へ運営上のことや困難事例発生の時に相談を行い指導を受けている。また、グループホームとしても市役所へ出向き具体的にアドバイスを受け質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ実例はないが、内部研修により認識を深め、必要な場合にはいつでも支援できる体制を整えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待だけでなく言葉による虐待も見過ごされてはいけない問題である。このことについて全職員に強く指導しているところである。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時から契約時まで丁寧な説明を行い、個々の立場に立ってわかりやすく説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見、要望、不満、苦情について気軽に引き出せるよう努めている。また苦情相談窓口を設けている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時に日頃の状況を伝え、特に健康状態については変化に応じて連絡をしている。また、利用者の希望があれば電話連絡で声を聞き、状況を伝えて相互の安心を図っている。金銭管理については家族に小遣い帳の確認をして貰っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開き、家族の思いや意見を引き出せるようにしている。また、家族の代表者が運営推進会議に参加して、家族としての思いや要望を伝えている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議及びミーティング等を開催している。全職員が「報告」「連絡」「相談」し合える関係作り、話のできる関係作りを心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員間で連携が日常的にとれているので柔軟な対応ができる。緊急時も近隣の職員が多い為協力が得られやすい。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージに配慮して馴染みの関係を大切にしているが、異動や辞職がやむえない場合は事前に家族や利用者へ伝え職員がフォローしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は法人での研修が直ぐに実施され、段階に応じた研修に参加している。学習会が毎月一回開かれ、外部研修の内容をを伝達発表し職員間で共有している。また、先輩職員が内部研修でレクチャーできる機会も設けられている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が地域のグループホームと相互訪問を行い、広報誌や話題の交換等を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	同一法人の診療所、老健との合同にて職場旅行、歓迎会等を行い運営者と現場との隔たりの解消に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は定期的に職員会議に参加し実績や勤務状況を把握し、スキルアップの為の助言や方向性について話合っている。また職員それぞれの適正を生かした役割分担を得意な分野を伸ばしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネからの情報のみならず、ご家族様や訪問調査時の利用者様からの情報を得よう努力している。入居時の相談時間はなるべく時間を多くとり、不安内容の明確化を図れるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際、環境に慣れるまで利用者様からホームでの生活希望や不安を十分に聞き、安心し納得していただけるよう対応している。また日頃から声かけをし、生活の中で不安等が生じた場合も利用者様と一緒に考え、対応に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容からニーズを抽出し、問題点や不安、悩み等を十分に聞き、軽減に努めている。また、今後のサービスの内容等についても相談し説明をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望は同法人通所リハビリを利用しているのがほとんどで、すでに面識や交流ができています。入居の前には、グループホームを訪れ見学し、ケアマネージャーが自宅を訪問して、生活の状況や環境を観察して馴染みの関係を築くよう配慮し、入居後は家庭の状況を反映した環境づくりで馴染みながらサービスが利用できる工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に料理を作りながら利用者は得意なことや昔のことを職員に教えている。例えば季節の草花の名前や活け方を、若い職員や男性職員に伝授したり、懐メロを流して知っている歌は職員と一緒に口ずさみ楽しんでいる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で利用者様の生活を共に支援していく対等な関係を築いている。また行事などをお知らせをし、共に楽しんでいただけるよう配慮している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思いがご家族様に伝わるよう配慮し、情報の提供に努めている。ご家族様の訪問、外出、外泊等、ご家族様との関係を維持できるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人、知人等の訪問について配慮するとともに、手紙や電話で連絡がとれるよう努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の性格や生活歴を把握して、ホーム内での気心を許せる関係を築き、共に支えあい、助け合えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時には、いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう、また相談事が生じた際には、いつでも気軽に連絡していただきたいとお伝えすることとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートに身体状況、身辺自立、社会性、生活歴、そして家族の思いや意見などを記入しており、入居時に本人からの情報と、日々の話し合いで得られたことを把握している。また、意向の把握が困難な利用者に対しては、日頃の支援の中で反応や表情から探り出している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より生活歴や生活環境、趣味等をお聞きし、情報収集に努め、その人に合った生活が送れるよう支援している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの心身状態を把握し、有する力を発揮できるよう、出番や役割を見出し残存機能低下の防止及び日々の活力向上に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月モニタリングシートを基に家族の意見や満足度を聞き取り、定期的なカンファレンスで職員、利用者、家族の意向を取り入れ介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しをしているが、状態の変化や毎月のモニタリングで変化のある時は、随時見直しをしている。介護認定の変更が生じた時も、現状に即した計画作成を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録にその日の利用者様の様子について記録し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の老人会へ利用者が参加して職員は付き添っている。また、通院の際家族が動向できない時は、職員が同行し支援を行っている。また、衣類の入れ替えなど家族ができない時は、利用者と共に自宅を訪問して行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防や警察との協力を大切にしている。また、新聞販売店が協力的に支援してくれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて協力をお願いするが、老健のデイの行事等には希望により参加していただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからは随時ホームの空き状況等の問い合わせがあり、来所により具体的な情報交換をしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科の医師が随時ホームに来て利用者の安心と信頼を得ている。入居前に通院していた医療機関や専門医を希望した場合は、家族または職員が同行して受診したり、ホームの協力医療機関の定期的な診察や隣接した大学病院の受診を受けている利用者もいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりを尊重して、優しい言葉掛けをしており、接し方もプライドに配慮した対応をしている。書類の取り扱いについても個人情報について学習し、取り扱いに注意を払っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様に合わせ、出来る限り本人の意思を尊重し、職員はさりげなく助言をすることにより、利用者様の考えを導き出し、納得して生活を送れるように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体的な生活リズムはあるが、体調や気分により自室で過ごしている人や、日向ぼっこを楽しむなど自分で好きなように過ごしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的には理美容については定期的に訪問にて当ホーム内で行っているが、ご家族様、利用者様の希望により、ご家族様と一緒に行き慣れた店に行くこともある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や味付け片付けとできることをして、職員と同じテーブルで同じ物を食べて、味付けや材料、季節の話題など家族のように話をし、ゆったりと団欒をとっている。また、利用者の食べたい物や好きな物の把握もして献立に取り入れるよう配慮も見られる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、タバコやお酒を飲まれる方は、いないが、コーヒー、紅茶を好まれて、それぞれ一人ひとりの濃さ、甘さ等、好みに応じて楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様の排泄パターンを知り、定期的なトイレ誘導にてトイレ内での自然な排泄ができるように可能な限り支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望に応じていつでも入浴可能である。汚れが気になった時や失禁など場合にに応じて入浴を実施し、体調や気持ちの変化に応じて清拭により、清潔保持を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室にて気楽に休んでいただけるようにしている。また昼夜逆転を防止し、夜間良眠していただくために、日中は居間に誘うよう声掛けを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴からその人の得意なことを把握して、今の時点でできることの支援を行い、食事づくりの手伝い、配膳、庭掃除、花の水遣りなど能力を発揮できるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は記録している。また、買い物に出かけた時は職員が見守り、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、近所を散歩して戸外に出るよう配慮をしている。買物も生活用品など近くのスーパーに出かけて、自分から行きたいと希望を引き出すよう工夫をしている。また、定期的な外出行事も実施して生活に外出することが馴染んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別においては、ご家族様と外出される機会を作り、行事としては花見や遠足等外出の場を設けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけられることが可能な方は、自由に電話を使用していただき、ご家族様や知人と連絡をとられている。また、必要に応じて手紙、ハガキを用意し、やりとりをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	基本的には居室または共有のスペースでの面会となり、他の利用者様ともに歓談していただいたりと、きがねがないよう過ごしていただいています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う必要が無く行っていない。出来る限り自由に安全に安心して生活が送れるように日々考え努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は好きなレクリエーションや散歩などにより、楽しいことや気分転換を行うことで玄関に鍵をかけないよう工夫をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の体調、気持ちにそって安全への配慮をし、プライバシーに配慮しながら、所在や様子の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミや台所の物品等については、必要に応じ、職員が見守りながら利用者様に使用していただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常日頃から利用者様の居場所、動きを把握、見守りをし、事故防止に努めている。事故、ひやり、はっと事例が発生した場合は安全対策について検討を行う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時の備えとしてマニュアルを備え、随時対応できるように努めている。また勉強会において検討している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自治区と防災協定を結んでおり、災害の発生したときは協力が得られるようになっていて、避難訓練も定期的の実施して速やかに避難できるようマニュアルも用意して取り組んでいる。また、食品の備蓄は契約して直ぐに運搬できるよう準備している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様の状況変化等、今後の状態を予測し、ご家族様に事前に相談をし、利用者様にとって、最も安心、安全な方向性を考え、対応策を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、夜勤者からの申し送りをし、情報を得ると共に、バイタルチェックも行い、状態変化に速やかに気づくようにしている。また利用者様の居場所、動きを常に把握している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様全員の服薬情報を周知しており、服薬履行の際にチェック表の記入を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりのペースに合わせた軽度の体操を行い、身体を動かす働きかけに取り組んでいる。また、排泄チェック表で確認を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら、口腔ケアの支援を行っている。義歯の手入れも合わせて行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養、水分摂取量の目安を基に一人ひとりの状況を記録している。献立は好みなど取り入れ同一法人の老人保健施設の栄養士が作成し、バランスの取れたメニューである。また、嚥下機能に応じて刻みや柔らかい食事への配慮もしている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり実行している。また外部から来られる方に対して、体調の悪い方は来所をひかえていただいている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理については賞味期限に留意して食品を老健の大型冷蔵庫または冷蔵庫にて保存している。食器類は毎食後毎回老健において熱消毒を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに鉢植えの観葉植物、草花等を植えて工夫している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近所から頂いた季節の花を飾り、目で楽しみ香りで感じる心配りが見られる。また、お雛様の飾りなど節目の行事や催しなどを通してゆったりと昔馴染みの生活の工夫をし居心地良く過ごしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには椅子、テーブル等を配置し過ごしやすいうにしている。またソファ等を置いて自由に過ごしていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	アパート形式で各部屋には流台やトイレなどがあり、仏壇、イス、洋服掛けなど家庭での馴染みのものの持ち込みもあり、その人の個性や趣味を活かした居心地の良い空間である。また、自分の下着を洗いベランダに干してあり家庭的である。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調により管理し、快適に過ごしていただけるよう配慮している。また、できる限り換気にも留意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、要所には手すりが取り付けられている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の一人ひとりの状態や能力を把握し、その人に合った声かけ、誘導を行っている。失敗があってもさりげない声かけ、対応によって本人のプライドを損なわないように心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関付近やベランダにおいて園芸を楽しんでいただいている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは医療法人が運営しており、併設または隣接して有床診療所、介護老人保健施設等が設けられています。そのため、とりわけ医療面において密度の濃いサービス提供が可能であり、利用者様やご家族様には安心して利用できるというメリットを有しています。また、緑多い閑静な環境の中にあり、比較的交通の便もよくご家族様にも好評をいただいています。職員は利用者様と常にふれ合い、利用者様にとって笑顔があふれる環境作り、雰囲気作りを心がけ、日々、よりよいホーム作りを目指し、邁進しているところです。